

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (134)

2022年11月の作品は
「受け継がれる人々の暮らし」
— 土浦城と霞ヶ浦を取り巻く文化 —

展示テーマ

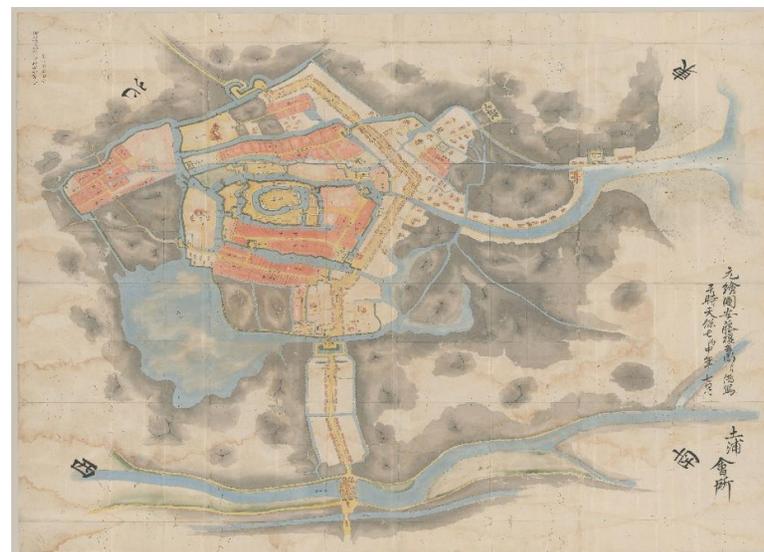
～古地図に見る土浦の発展～

常陸国新治郡（現 茨城県土浦市）には、かつて譜代大名の城として整えられた「土浦城」が存在した。本格的に整備されたのは江戸時代の関ヶ原の戦い後であるが、最初に築城されたのは室町にまで遡る。

この城は霞ヶ浦に注ぐ桜川の氾濫原の微高地を巧みに利用して築かれた。川の洪水にも耐え抜いて浮かんでいる姿が亀の甲羅のように見えたことから、「亀城」という別名が付いたほどである。現在は本丸、二の丸にあたる部分が公園として整備され、「亀城公園」として一般公開されており、台風被害や2011年の東日本大震災を経ても、土浦の歴史を現在に示す形で、絶え間なく受け継いでいる。

ここでは、土浦城、並びに土浦藩が最も栄えていた頃に描かれたものである城の古地図を取り上げ、土浦城の歴史について概要を説明する。

また、この古地図が制作された背景や、当時の人々の暮らしについて考察し、今日の土浦の町と比較しながら、現代の我々の生活に何が残されているのか、具体的に追及したい。



「土浦御城内外之絵図」
江戸時代、天保7年（1836）
作者不明
縦136cm × 横150cm

真上から土浦城を俯瞰する構図で、土浦城の内部と、水路で取り囲まれた外部の様子が詳細にまで描かれている。

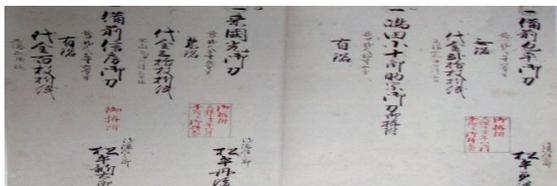
作者、版元は不明であるが、古地図の右端に「安藤権兵衛」から借りて写したものだという説明書きがある。彼は土浦藩の土屋家が創建した藩校である「郁文館」の都講であった。このことから、土浦城は様々な知識人とかかわりを持ちながら発展して行ったと考察することができる。

城下町が形成され始めた江戸時代前期から、土浦城を描いた古地図は多数存在しており、土浦市立博物館に所蔵されている。特にこの地図が描かれた時代は、土浦藩が水戸に次ぐ第二の城下町として最も栄えた時代である。すなわち、土浦城を特徴づける周辺の水路はこの形が最終的な完成形だったと考察することが可能である。

土浦城は江戸時代の約 200 年間、土屋家が 11 代にわたって土浦地方を治めていた。歴代藩主のほとんどが幕府の重職の地位に就いていたことが知られている。この古地図が書かれた時代は、土屋家 9 代目藩主、土屋彦直の治世下にあった。

大名土屋家は 9 万 5 千石もの領地に見合う道具を土浦城に整えていた。特に刀剣類は奇跡的に永い間保管されていた。平成 14 年、土浦市は刀剣 83 口を一括購入することになり、土浦市立博物館で今でも展示を続けている。(令和 4 年 10 月現在休館中)

土屋家の刀剣台帳である『御腰物』によると、その刀剣は藩主個人のものというより歴代の藩主に引き継がれる「御譲品」としての性格があったと考えられている。このように、土浦藩と土屋氏の栄華を示す記念物は古地図を含め、今日まで大切に保管されていることが分かる。



(↑『御腰物』土浦藩 土屋家の刀剣より)

展示のみどころ

～水路の利用と不変の文化～

上記では、土浦城の発展と当時の文化について考察した。明治維新の流れの中で城は取り壊されてしまったが、霞ヶ浦とともに発展した土浦の町は今でもその土地で暮らす人々に深く根付いている。

では、土浦城が現代の我々に遺した遺産は何であろうか。ここでは、現在の亀城公園の地図を取り上げ、古地図との比較を通して、今でも受け継がれる人々の暮らしについて考察する。

城下町のまわりには、水辺の空間が広がっており、そこには農作業や漁業、鳥淵を営む人々の姿が見られた。特に霞ヶ浦の存在は、商業を発展させ、日常生活に恩恵を与えた。また、水害が多かった町を取り囲むように、低地でい草栽培を行った村、沿岸で湖の共同利用を行った村など、個性豊かな村が町と結びつきながら発展を遂げた。



明治以降の近代化と、戦後の高度経済成長期によって、150 年ほどの間に土浦の暮らしは変化して行く。左図は江戸時代の土浦城と現在の城跡である亀城公園の比較である。

かつては城の防衛のために屈曲していた堀や土塁線は、現在は直線になっている

また、現在は公園化に伴って石垣が設置されており、観光地の性格を備えて現在の地元の人々の暮らしに深く結びついている。

(←2020 年 7 月 18 日 亀城公園にて撮影)

現在は霞ヶ浦の水辺環境を活かしたレンコン栽培が行われている。そして、土浦は現在、日本一のレンコン産地として、40 年以上も栽培を続けている。このように、人々は霞ヶ浦の恩恵を充分に享受して、土地利用を時代に適した形に変化させながら、過去から現在へと暮らしを受け継いでいることが読み取れる。

平成 29 年 4 月 6 日、土浦城は続日本 100 名城に認定された。伝統の重みを増す土浦の町が、今後どのように変遷して行くのか見つけ続ける必要があるだろう。

参考文献

- ・土浦市立博物館、展示解説パンフレット(2007)『霞ヶ浦に育まれた人々の暮らし』
- ・土浦市立博物館『復刻 土浦城絵図 常陸国新治郡土浦城図』(出版年不明)
- ・土浦市立博物館、パンフレット『土浦藩 土屋家の刀剣』(出版年不明)

あとがき ～貴重資料に触れて～

一枚の地図をきっかけに、土浦の歴史について調査することで、常陸国だけでなく、当時の日本文化について深く知ることができた。研究を経た後に古地図を眺めると、描かれた風景に込められた人々の思いについても思考を巡らすことができ、自分の中で捉える地図の意味合いが大きく変化することに気付いて興味深かった。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また、利用は学術研究目的に限らせていただきます。

令和 4 年 11 月 1 日発行
令和元年度 日本文化論 A 受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター

第 135 回展示は令和 4 年 12 月上旬からを予定しています。